



決め手は、青森県産。

特産果樹生産情報第4号
(6月29日～8月1日)



令和元年6月28日発表
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

**ぶどうは薬剤散布を1回追加！
おうとう、うめ、あんずは適期収穫と収穫後防除の徹底を!!
もも、西洋なしは病害虫防除を万全に!!!**

I 要約

- ぶどうは開花が10日程度早まったことから、例年の防除計画では散布間隔が開きすぎるので、薬剤散布を1回追加することとし、例年の「大豆粒大(7月中旬頃)」の薬剤散布を「大豆粒大」と「7月中旬」の2回に分けて行う。
- おうとうは適期収穫に努める。また、褐色せん孔病が発生すると早期落葉するので、収穫後の防除を必ず行う。
- うめ・あんずは適期収穫に努める。また、環紋葉枯病が発生すると早期落葉するので、収穫後の防除を必ず行う。
- ももは新梢に発生するせん孔細菌病の夏型枝病斑を見つけ次第、速やかに切り取って処分する。
- もも、西洋なしはシンクイムシ類の防除対策を徹底する。
- 西洋なしは輪紋病防除のため、10日間隔の薬剤散布を厳守する。

II 生産情報

1 生育概況

露地ぶどうの落花日は、五戸（りんご研究所県南果樹部）の「キャンベル・アーリー」が平年より12日早く、「スチューベン」が9日早く、黒石（りんご研究所）の「スチューベン」が平年より8日早かった。

無加温ハウスぶどうの「キャンベル・アーリー」の落花日は、五戸で平年より3日早く、三戸（県生育観測ほ）で6日遅かった。

おうとうの収穫期は平年より早く、南部町では6月20日頃から佐藤錦の収穫が始まった。

もも、西洋なしの果実肥大は、五戸で6月20日現在、平年を上回っている。

(1) ぶどうの生育ステージ

(6月28日現在)

品 種	場 所	年	発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日	ハウス被覆日
スチューベン	五戸	本年	4.29	5.15	6.13	6.16	6.23	/
		平年	4.30	5.14	6.23	6.26	7.2	
		前年	4.28	5.13	6.21	6.23	6.30	
	黒石	本年	4.25	5.7	6.7	6.10	6.21	
		平年	4.29	5.9	6.18	6.21	6.29	
		前年	4.25	5.3	6.15	6.19	6.26	
キャンベル・アーリー (露地)	五戸	本年	4.24	5.11	6.7	6.10	6.15	
		平年	4.29	5.13	6.20	6.23	6.27	
		前年	4.23	5.7	6.19	6.21	6.25	
キャンベル・アーリー (無加温ハウス)	五戸	本年	4.12	4.30	5.25	5.27	6.2	3.22
		平年	4.16	4.29	5.28	5.30	6.5	3.23
		前年	4.10	4.27	5.31	6.3	6.7	3.23
	三戸	本年	4.8	4.21	5.18	5.21	5.25	3.19
		平年	4.5	4.14	5.13	5.16	5.19	3.15
		前年	4.3	4.15	5.15	5.17	5.21	3.19
【参考】 シャインマスカット (簡易雨よけ)	五戸	本年	5.1	5.15	6.20	6.25	6.28	/
		平年	5.2	5.14	6.30	7.2	7.5	
		前年	4.28	5.13	6.26	6.29	7.1	
【参考】 シャインマスカット (露地)	黒石	本年	5.1	5.10	6.17	6.21	6.26	/
		平年	5.2	5.13	6.25	6.28	7.2	
		前年	4.25	5.3	6.23	6.27	7.1	

注1) 場所は五戸がりんご研究所県南果樹部、黒石がりんご研究所、三戸が三戸町川守田（県生育観測ほ）、以下同様

2) 平年値は1999～2018年（20年間）の平均。ただし、スチューベンの黒石は2000～2018年（19年間）の平均、キャンベル・アーリー（無加温ハウス）の五戸は2005～2018年（14年間）、シャインマスカットの五戸は2011～2018年（8年間）、黒石は2009～2018年（10年間）の平均

(2) もも、西洋なしの果実肥大 (6月20日現在、横径cm、%)

地域	樹種(品種)	本年	平年	前年	平年比
五戸 (県南果樹部)	もも(川中島白桃)	3.2	2.7	3.1	119
	西洋なし(ゼネラル・レクラク)	3.2	2.7	3.2	119

注1) 平年値: ももは2009~2018年(10年間)の平均

なしは1999~2018年(20年間)の平均

2) ももの横径は、縫合線を挟んで測定した最大径

2 作業の重点

(1) ぶどう

ア 露地栽培

(ア) 副梢の誘引、結束

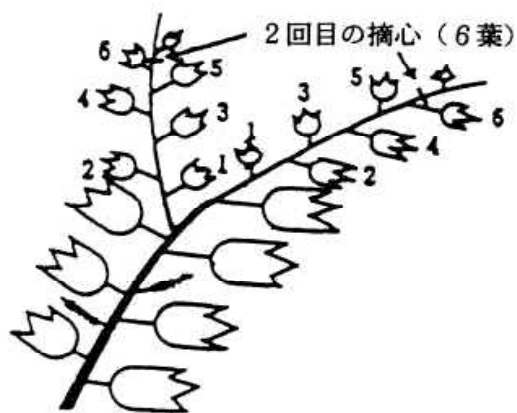
薬剤や日光の通りを良くするため、副梢は随時角度や間隔を調整しながら架線に誘引し、結束する。

(イ) 摘心(2回目)

摘心時期は副梢の展葉枚数が8~9枚になった頃で、1回目の摘心後に伸びた副梢を5~6葉残して摘心する。副々梢は摘心部位の先端のみ残して、他はすべて摘除する。これ以降も副々梢が伸びる場合は、3~5葉で摘心する。



スチューベン、シャインマスカットの摘心(2回目)



キャンベル・アーリーの摘心(2回目)

(ウ) ジベレリン処理

シャインマスカットは無種子化処理が必須である。効果を確実にするため、次の手順に従って処理を行う。

<手順>

ジベレリン処理は、必ず花穂の先端まで開花してから行う。

【ジベレリン2回処理の場合】

1回目は無種子化のために、満開時～満開3日後にジベレリン25ppm溶液にフルメット液剤(5ppm)を加用した溶液に花房浸漬する。処理適期は、花穂先端まで咲ききったときである。

2回目は果粒肥大促進のために、満開10～15日後にジベレリン25ppm溶液に果房浸漬する。なお、2回目処理時はジベレリンによるさび果を防止するため、果房又は樹を揺らし、薬液が果粒に残らないようにする。



シャインマスカットの満開時の花穂

(エ) 摘房

摘房は早めに行うほど養分の浪費が少なく、その効果も大きい。

キャンベル・アーリーは花振るいが比較的多いので、結実し果房の形が決まってから行う。スチューベンなどの中粒種の着房数の目安は次のとおりである。

- 生育が極端に劣る結果枝：原則としてすべて摘房
- 生育がやや劣る結果枝：1果房
- 中庸または旺盛な生育の結果枝：2果房

シャインマスカットなどの大粒種は、原則1結果枝に1果房とし、生育が極端に劣る結果枝では全て摘房してもよい。

(オ) 摘粒

摘粒は粒数や果房の大きさを制限することにより、果房の品質を向上させるほか、スチューベンなど密着型の品種では裂果の防止にもなる。

実施時期は実止まりし、果実の大きさが小豆粒大の頃(満開後15～25日)から始め、果粒軟化期前(8月上旬頃)には終える。シャインマスカットでは大豆粒大(7mm程度)頃までに終える。

品種別の摘粒の目安は次表のとおりである。小粒果やさび果などの障害果のほか、果粒が外向きに並ぶように内側の果粒を除去し、目安の果粒数にする。

品種別目標果房重と果粒数（摘粒の目安）

品 種	果房重（g）	果粒数（粒）	1粒重（g）
スチューベン	300	70～80	4.0
キャンベル・アーリー	300	50～60	5.5
シャインマスカット	450～550	40～50	12～13



シャインマスカットの摘粒前後の果房
（左：摘粒前（61粒）、右：摘粒後（45粒））

(カ) シャインマスカットの袋かけ

無袋栽培では「かすり症」による品質低下が問題となるので、有袋栽培を行う。袋かけは摘粒を終えてから、果粒軟化期頃（7月下旬～8月上旬）に行い、収穫時まではずさない。また、気温が30℃を超える極端に高温な日や時間帯は日焼けを助長する場合があるので袋かけをしない。

袋かけ前に、必ず薬剤防除を行う。

イ 無加温ハウス栽培

(ア) ハウスの温度管理

ハウス内が高温になると果実の日焼けなど高温障害の発生が懸念されるので、ハウスのサイド、妻及び屋根の谷間を巻き上げるなどして換気する。

(イ) シャインマスカットの袋かけ

露地栽培に準じる。

(ウ) 収 穫

収穫は品種特有の着色を示し、芳香を放ち、食味も良くなり固有の風味に達してから行う。収穫時の糖度は、屈折糖度計でキャンベル・アーリーでは14%を目安とする。

なお、キャンベル・アーリーは着色が良いため、低糖度の果房や未熟果が収穫されがちなので、果皮色が紫黒色となり、果粉に覆われ品種固有の食味に達してから収穫する。

ウ 追肥（地力の低い園地のみ）

砂礫質の沖積土壌や火山灰土壌などの地力の低い園地では、7月中旬（スチ

ューベンは7月上旬)の果粒肥大期に全施用量の10%を施用する。施用量は成木(5年生以降)で10a当たり窒素1.5kg、リン酸1.0kg、カリ1.0kgを目安として施用するが、樹勢によって加減する。

エ 病虫害防除

(ア) 薬剤散布

本年は開花が約10日早まり、例年どおりの計画で薬剤散布すると、散布間隔が開きすぎる。そこで、薬剤散布を1回追加することとし、例年の「大豆粒大(7月中旬頃)」を「大豆粒大」と「7月中旬」の2回に分け、薬剤散布を行う。

なお、薬剤の年間使用回数には十分注意する。

キャンベル・アーリー基準

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10a
大豆粒大	ジマンダイセン水和剤 1,000倍	ジノテフラン水溶剤 2,000倍 〔スタークル顆粒水溶剤〕 アルハリン顆粒水溶剤	2500
7月中旬	アミスター10フロアブル 1,000倍 又はストロビートライフロアブル 2,000倍 又はホライズントライフロアブル 2,500倍	アグロスリン水和剤 2,000倍 又はアディオンフロアブル 1,500倍	2500
8月上旬	ストロビートライフロアブル 2,000倍 又はホライズントライフロアブル 2,500倍		2500

注1)「大豆粒大」以降、展着剤は使用しない。

2)ジマンダイセン水和剤(有効成分:マンゼブ)の年間使用回数は「2回以内」である。また、散布時期が遅れると果面汚染の懸念があるので、「大豆粒大」までに散布する。

3)ストロビルリン単剤のアミスター10フロアブルとストロビートライフロアブル及び同じ系統の混合剤であるホライズントライフロアブルは、薬剤耐性の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。ただし、ストロビルリン単剤は年1回以内の使用とする。

スチューベン基準

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10a
大豆粒大	ジマンダイセン水和剤 1,000倍	ジノテフラン水溶剤 2,000倍 〔スタークル顆粒水溶剤〕 アルハリン顆粒水溶剤	2500
7月中旬	アミスター10フロアブル 1,000倍 又はストロビートライフロアブル 2,000倍 又はホライズントライフロアブル 2,500倍	アグロスリン水和剤 2,000倍 又はアディオンフロアブル 1,500倍	2500
8月上旬	アミスター10フロアブル 1,000倍 又はストロビートライフロアブル 2,000倍 又はホライズントライフロアブル 2,500倍		2500

注)キャンベル・アーリー基準と同様。

(イ) 晩腐病対策

発病果粒や発病果房は見つけ次第摘み取って、土中深く埋めるなどの処分をする。園地内の排水や通風を良くし、過湿にならないようにする。

スチューベンで発生が多い園地では、「小豆粒大」にベンレート水和剤3,000倍を特別散布する。

(ウ) ベと病対策（スチューベン対象）

軟弱な生育を避けるために、窒素肥料を施用し過ぎない。発病葉や発病果房は見つけ次第、摘み取って処分する。排水不良園では、排水溝を掘って、雨水が長く溜まらないようにする。

(エ) コガネムシ類対策

成虫は捕殺する。

「7月下旬」に発生が見られる場合は、アグロスリン水和剤2,000倍、アディオフロアブル1,500倍、スミチオン水和剤40,800倍のいずれかを特別散布する。

(2) おうとう

ア 晩生種の収穫

収穫はなるべく朝や夕方の涼しい時間帯に行う。日中の高温時に収穫する時は、収穫後直ちに冷涼な日陰に置いて果実温を下げ、鮮度を保つ。

収穫が遅れるとショウジョウバエ類の発生やうるみ果が出やすいので、適期収穫に努めるとともに被害果は除去する。

「ジュノハート」の収穫始めの目安は「満開55日後頃」で、着色指数5の果実からすぐりもぎし、「満開60日後頃」以降は、着色指数4～5の果実を収穫する。

イ 追肥（礼肥）

樹勢回復と花芽分化促進のために、収穫後の7月中旬に全施肥量の20%を施用する。施用量は成木（11年生以降）で10a当たり窒素3.0kg、リン酸1.2kg、カリ2.4kgを目安とするが、土壌条件や樹勢によって加減する。

ウ 雨よけ被覆資材の除去

収穫が終わったら、できるだけ早く被覆資材を除去する。

エ 病虫害防除

(ア) 薬剤散布

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10a
収穫前 (晩生種)	アミスター10フロアブル 1,000倍 又はナリアWDG 2,000倍	スカウトフロアブル 3,000倍 又はテルスターフロアブル4,000倍 又はエクシールSE 2,500倍	5000

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10a
収穫後	ホーサイト水和剤80 800倍 又はホキシラン水和剤 600倍 又はチウラム剤 500倍 〔チオノックフロアブル〕 〔トレノックスフロアブル〕	スプライト水和剤 1,500倍	5000

注) ストロビルリン単剤のアミスター10フロアブルとファンタジスタ顆粒水和剤及び同じ系統の混合剤であるナリアWDGは薬剤耐性の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。ただし、ストロビルリン単剤は連続使用しない。

(イ) 灰星病対策

実腐れは見つけ次第、摘み取って土中深く埋めるなどの処分をする。

(ウ) 褐色せん孔病対策

多発すると早期に落葉するので、「収穫後」の薬剤散布は必ず行う。

(エ) オウトウショウジョウバエ対策

被害果や取り残し果実はオウトウショウジョウバエの発生源となり、園内密度が高まるので、速やかに処分する。

(オ) カメムシ類対策

8月上旬まで断続的に成虫が飛来し、葉に産卵するので、卵塊は見つけ次第、つぶして処分する。ふ化幼虫が見られたら、分散する前に捕殺する。

「収穫前（晩生種）」に、オウトウショウジョウバエ対策でテルスターフロアブル又はスカウトフロアブルを散布すると、この時期の防除剤は必要ない。

(3) もも

ア 見直し（修正）摘果

硬核期が終了し、果実肥大に差が見られる満開70日後以降（7月中下旬頃以降）、病害虫の被害果や果形、肥大の悪い果実、障害果などを随時摘果する。また、新梢伸長や葉色を観察し、樹勢に応じた着果量にする。

イ 新梢整理

樹冠内部を明るく保つように適宜行う。

太枝の背面や先端部から伸びた徒長的で生育旺盛な新梢は除去する。なお、日焼け対策として残す部分は、葉芽を必ず残して5～10cm程度に切る。

ウ 摘葉

ももは果実に直接光線が当たらないと着色しにくいので、摘葉を行う前に、

十分な新梢整理や支柱立て、枝の吊り上げなどを行ってから、果実に触れている葉を数枚摘み取る。摘み取り過ぎると、外観や品質の低下を招くので注意する。

エ 除袋と着色手入れ

除袋の適期は概ね収穫の10～14日前頃である。除袋時期が早過ぎるとくすんだ赤色となり、収穫までの日数がかかる。遅過ぎると着色が不十分なうちに収穫期を迎えてしまう。

目安としては、果実が品種本来の大きさになり、果皮が全体的に白みがかり地色が5～6割抜けた（果梗部と縫合線周辺に青みが残る）頃とする。ただし、天候不順が予想される場合は除袋時期を2～3日早める。除袋後は果実に直接覆いかぶさっている葉を摘み取る。

オ 病虫害防除

(ア) 薬剤散布

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10 a
7月上旬	ダコニール1000 1,000倍 又はバルコートフロアブル 2,000倍	バイスロイドEW 2,000倍 又はイカズチWDG 1,500倍	400ℓ
7月中旬	ダコニール1000 1,000倍	ジノテフラン水溶剤 2,000倍 〔スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤〕 又はサムコルフロアブル10 5,000倍	400ℓ
7月下旬	ダコニール1000 1,000倍 又はバルコートフロアブル 2,000倍	ダイジロン水和剤34 1,000倍 又はモスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 又はダントツ水溶剤 2,000倍 又はサムコルフロアブル10 5,000倍	400ℓ

(イ) せん孔細菌病対策

6～8月に新梢に発生する夏型枝病斑は重要な伝染源になるので、速やかに枝ごと切り取って処分する。風を強く受ける地帯で多発するので、防風網の設置などの耕作的対策も併せて行う。



せん孔細菌病（夏型枝病斑）

(ウ) シンクイムシ類対策

幼虫が果実から脱出する前に被害果を採取し、7日間以上水に漬けるか、穴を掘り10cm以上の土をかぶせて埋める。被害果をそのまま放置すると次世代の

発生源となるので、必ず処分する。

ナシヒメシンクイの加害による新梢の芯折れは見つけ次第、摘み取って処分する。

(エ) カメムシ類対策

8月上旬まで断続的に成虫が飛来し、葉に産卵するので、卵塊は見つけ次第、つぶして処分する。ふ化幼虫が見られたら、分散する前に捕殺する。

発生が見られる園地では、基準薬剤の中から「7月上旬」はイカズチWDGを、「7月中旬」はジノテフラン水溶剤を、「7月下旬」はダントツ水溶剤を選択する。

(4) な し

ア 徒長枝の整理

徒長枝は、将来、結実枝として使用するもの以外は、早めに除去する。徒長枝を切る際には、高切りせずに、枝の基部からきれいに除去する。

イ 病虫害防除（西洋なし）

(ア) 薬剤散布

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10 a
7月上旬	ストロビートライフロアブル 2,000倍 又はナリアWDG 2,000倍	ダイジノン水和剤34 1,000倍 又はダズバンDF 3,000倍	4500
7月中旬	オキシラン水和剤 500倍 又はキャプレート水和剤 600倍	スカウトフロアブル 2,000倍 又はテルスター水和剤 1,000倍 又はダイジノン水和剤34 1,000倍	4500
7月下旬	ストロビートライフロアブル 2,000倍 又はナリアWDG 2,000倍 又はバルコート水和剤 1,000倍	ダズバンDF 3,000倍 又はスカウトフロアブル 2,000倍	4500

注1) ストロビルリン単剤のストロビートライフロアブル及び同じ系統の混合剤であるナリアWDGは、薬剤耐性の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。

2) 「7月下旬」以降、プレコースやゼネラル・レクラークなどの早・中生種に散布する場合、収穫前日数に注意して薬剤を選択する。

(イ) 輪紋病対策

6～7月の幼果期は最も感染しやすいので、10日間隔の薬剤散布を守る。なお、散布予定日に降雨が予想される場合には、事前散布する。

(ウ) カメムシ類対策

8月上旬まで断続的に成虫が飛来し、葉に産卵するので、卵塊は見つけ次第、つぶして処分する。ふ化幼虫が見られたら、分散する前に捕殺する。

発生が見られた場合は、MR. ジョーカー水和剤2,000倍を特別散布する。

なお、「7月中旬」に発生が見られたときは、テルスター水和剤を選択するか、スカウトフロアブルを1,500倍で使用する。また、「7月下旬」に発生が見られたときは、スカウトフロアブルを1,500倍で使用する。

(エ) シンクイムシ類対策

幼虫が果実から脱出する前に被害果を採取し、7日間以上水に漬けるか、穴を掘り10cm以上の土をかぶせて埋める。被害果をそのまま放置すると次世代の発生源となるので、必ず処分する。

(5) うめ・あんず

ア 収穫

(ア) うめ

梅漬け用は果面の地色が僅かに抜けて、やや白みを帯びた頃である。梅酒用はこれより2～3日早めのまだ青いうちに収穫する。

(イ) あんず

果梗部の色が薄れて黄色に変わり始めた頃（果実がまだ軟らかくならないうちに）が適期である。また、収穫適期の期間が短いので、適期を逃さず、速やかに収穫を行う。

イ 追肥（礼肥）

収穫後に全施肥量の20%を施用する。施用量は成木（9年生以降）で10a当たり窒素2.8kg、リン酸1.2kg、カリ2.0kgを目安として施用するが、土壌条件や樹勢によって加減する。

ウ 病害虫防除

(ア) 薬剤散布

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10a
収穫後 (7月下旬～ 8月上旬)	トップジンM水和剤 1,500倍 又はストピートドライフロアブル 2,000倍 又はロブラール水和剤 1,500倍	—————	3500

(イ) 灰星病対策

あんずでは灰星病が発生しやすいので、収穫前にオーシャイン水和剤3,000倍を特別散布する。

(ウ) 環紋葉枯病対策

環紋葉枯病が発生すると早期落葉するので、「収穫後」の薬剤散布は必ず実施する。

《 農薬使用基準の遵守 》

青森県農薬危害防止運動期間中（5月1日～8月31日）です！

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

また、短期暴露評価の導入により使用方法が変更される農薬は、登録内容の変更前であっても、変更後の使用方法で使用する必要があるため、変更の有無を次のWebサイトで確認してから使用する。

○農林水産省「農薬情報」

http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/

○(独)農林水産消費安全技術センター「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

○青森県農業情報サービスネットワーク「アップルネット」農薬情報

<http://www.applenet.jp/>

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように、農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 ポジティブリスト制への対応 》

農薬の飛散により、周辺住民及び作物に被害を及ぼすことのないように、散布情報の提供・交換等地域が連携し、農薬飛散低減対策に留意して散布を行う。

～農業保険（農業共済及び収入保険）への加入について～

自分にあったセーフティネットに加入し、農業経営に万全の備えを！

○農業共済

「農業共済」は、自然災害等により農作物・家畜・園芸施設に損害が生じた場合に補償される制度です。

○農業経営収入保険

令和元年から始まった「農業経営収入保険」は、自然災害に加え、農産物の価格低下などにより販売収入が減少した場合に補償される制度です。加入には、青色申告の実績が条件となっています。

※詳しくは、お近くの農業共済組合にお問い合わせください。

農作業事故が多発しています！農作業安全を心がけましょう！

融雪水による園地浸水や土砂災害に注意しましょう！

山火事などの火災の発生防止に努めましょう！

次回の発行は令和元年8月1日(木)の予定です。

連絡先 : りんご果樹課生産振興グループ
電話番号 : 017-722-1111代表
 内線 5092, 5097
 017-734-9492直通